



事例 1

SEA TO SUMMIT for Children

Sea to Summitは㈱モンベルが実施している、人力のみで海(カヤック)から里(自転車)、そして山頂(登山)へ向かうプロセスで、自然の循環を肌で感じながら自然への理解を深める環境スポーツイベントです。モンベルとの共創により、青少年の生きる力を育み、SDGsを推進する目的で企画し、機構施設の地域性を活かした奥行きのある自然体験イベントとして実施しています。



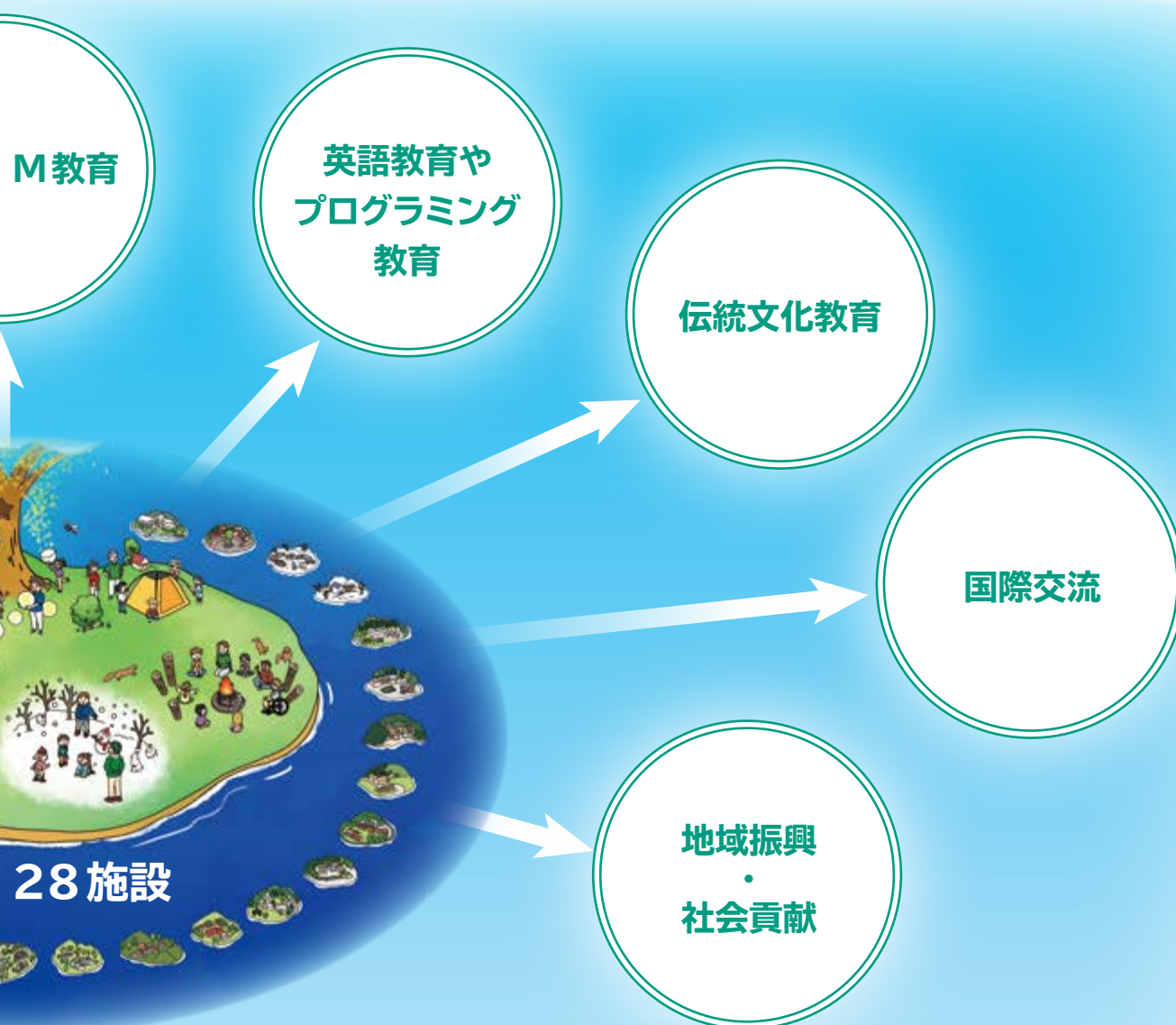
事例 2

タイガー魔法瓶株式会社

子どもたちの防災意識と災害対応力の向上や STEAM 教育、地方自治体等との連携による防災教育等の実施をととして、防災教育を促進し、社会や青少年が直面する課題に対応することで、健全な青少年を育成することを目的としてタイガー魔法瓶株式会社と包括連携協定を締結しました。震災のあった、能登においては防災教育の一環として野外炊飯器を用いた、防災ご飯作り体験を実施しました。



連携促進



事例

3

阿蘇医療センター

国立阿蘇青少年交流の家と阿蘇医療センターは、相互の資源・機能を活かし、感染症・傷病等の治療協力、医療研修、環境教育、防災教育及び人材育成等を推進し、持続可能な地域社会の実現発展に寄与することを目的として、連携協定を締結しました。



事例

4

春のキッズフェスタ2023

「すべての子どもたちの笑顔のために」を主題に掲げ自己肯定感や意欲、忍耐力などの「非認知能力」と言われる学力テストなどでは数値化されない、子どもの将来や人生を豊かにする力、いわゆる「生きる力」を育むことを目的に官民一体では初の開催となる「春のキッズフェスタ2023」を株式会社ラフ&ピースマザー及び株式会社CANVASとの共催で開催しました。国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）を会場に124の体験プログラムを実施し2日間(2023.5/27～28)で約15,000人の来場がありました。



令和6年能登半島地震における取組み

令和6年1月1日に発生した能登半島地震に対して、機構は活動プログラムの提供や宿泊施設等の提供による支援を展開しました。

事例 1

リフレッシュキャンプの実施

被災した児童・生徒に、自然に親しみながらの体験活動を提供し、心穏やかに、心身ともにリフレッシュする機会を提供するため、被災地域の小中学生を対象にしたリフレッシュキャンプを実施しました。

区分	実施場所	事業数	参加者数
リフレッシュデイキャンプ	能登	7回	163名
笑顔キャラバン隊	七尾市立小丸山小学校	3回	355名
リフレッシュ春キャンプ	能登・立山	3回	143名



事例 2

宿泊施設等の提供

能登には多くの人々が避難し、避難所として受け入れられました。また、断水の影響で自宅での入浴が困難な被災者に対し、1月10日～3月31日の期間、定期的に浴室の無料開放を行い、延べ約1万人の利用がありました。浴室開放時には体験・遊びコーナーも開設し、卓球やボードゲーム等が楽しめるスペースを提供しました。

また、発災直後から官公庁はじめ医療関係者、ボランティア団体など復興関係者を受け入れるとともに、羽咋市との福祉避難所協定に基づき輪島市のグループホーム入所者31名、寮や自宅が被災したことにより通学が困難な生徒の二次避難所として2校56名を受け入れました。



トピック

国立青少年教育振興機構アンバサダー

国立青少年教育振興機構の取組みを広く発信することにより、機構のイメージアップ及び認知度向上を図るため、令和6年度より国立青少年教育振興機構アンバサダー（以下機構アンバサダー）を設置しました。

機構アンバサダーには、それぞれの知見や専門性を活かして、国立青少年教育振興機構の魅力を紹介する活動やイベントの参画、PRなどに携わっていただきます。

● 国立青少年教育振興機構アンバサダー

氏 名	所 属・役 職
五十嵐美樹	東京都市大学特任准教授、サイエンスエンターテイナー
岡田 武史	株式会社 今治、夢スポーツ代表取締役会長 公益財団法人日本サッカー協会副会長
金澤 翔子	書家
隈 研吾	建築家 東京大学特別教授・名誉教授
増田 明美	スポーツジャーナリスト
藪内佐斗司	彫刻家

（令和6年4月現在 五十音順、敬称略）